

# 目次

発刊のことは

例言

執筆分担

## 第一編 原 始

### 第一章 塩尻の原始・古代

#### 第一節 原始・古代の生活環境

東山山麓 南部山麓 田川扇状地 田川河岸段丘  
 田川低平地 奈良井川・小曾部川流域 小野川流域

#### 第二節 原始時代の変遷

##### 一 旧石器時代

1 氷河と火山の時代(9)

2 石器の変遷(11)

3 生活と文化(13)

##### 二 縄文時代

1 縄文時代の年代と古さ(14)

2 縄文時代の六

期区分(草創期・早期・前期・中期・後・晩期)

##### 三 弥生時代

1 時代の長さとその概要(22)

### 第二章 塩尻の遺跡と遺物

#### 第一節 東山山麓の遺跡

1 大宮林 2 銭亀平 3 矢口(環状集落の初源・土

壙墓の典型例) 4 古屋敷(前期末集落の好例)

5 無量庵 6 弁当原 7 上手村 8 久保在家

9 鍛冶屋 10 小丸山(縄文中期集落の解明・興味深い

土偶の出土状態・松本平東縁の縄文中期大集落) 11

内田原(平安時代集落跡の出現・平安末期の庶民生活の

復元)(31) 12 松座屋敷 13 二本木 14 君石

15 別方 16 下境沢 17 境沢 18 狐塚 19 日向

20 渋沢 21 源十窪 22 富士塚 23 男屋敷(松本平

有数の縄文前期集落・有尾式土器の一括資料・平安時代

の男屋敷) 24 竹原 25 宮村 26 中屋敷 27 五

千石 28 一本杉 29 立石 30 竹ノ花 31 城

32 長者清水 33 今泉 34 鶯沢 35 女夫山ノ神

36 中原 37 牛壳沢(40) 38 大沢 39 横町 40

葛蒲沢 41 葛蒲沢窯跡(窯跡と工房址・瓦塔と鳥形

硯・平安時代の墓墟) 42 組原(縄文中期の環状集

落・平安時代の集落) 43 山ノ神 44 中原 45 犬

原 46 上木戸(豪華な縄文土器とヒスイ製装身具・溝

に囲まれた弥生の村) 47 電神平(早期押型文期の集

落・古墳時代農耕祭祀の一例) 48 電神 49 榛ノ木

沢 (50) 50 入道 51 北原 (縄文集落の確立と定着

期の姿) 52 向陽台 (早期押型文期の集落・前期中越

期の集落・弥生後期の集落) 53 高山城 54 堂の前

(縄文早期後半の集落址) 55 福沢 (押型文土器の編

年と弥生文化波及期) 56 樋口 57 ヨケ 58 粟木

沢 59 太子山 60 小坂田 61 入山 62 代官山

62 犬飼沢 64 犬飼原 65 松井沢 66 下松井沢

67 御野立 68 塩尻峠付近

## 第二節 南部山麓の遺跡……………六

69 大門 70 柴宮 (銅鐸分布図の拡大) 71 大門三番

町 (60) 72 西福寺西 73 西福寺前 74 阿弥陀堂

75 館 (X字形土偶の南限資料) 76 ちんじゅ 77 山

ノ越 78 本村 79 石川 80 地神久保 81 狐久保

82 平林 83 清水 84 銭宮 85 筋久保 86 大久保

87 ヨキ峠 88 御幕堂 89 久野井 90 三嶽西 91

記常塚 92 東沢

## 第三節 田川扇状地の遺跡……………六

93 堂屋敷 94 杜宮寺 95 中島 96 柿沢 97 柿沢

東 (縄文中期後半の集落) 98 御堂垣外 (市内最多の

敷石住居群) 99 北山 100 大原 101 禰ノ神 (70)

102 小丸山北 103 五輪堂 (弥生初期の集落と近世の人

骨) 104 大石沢 105 田川浦 106 八窪 (押型文期の

集落跡) 107 青木沢 108 青木沢東

## 第四節 田川河岸段丘の遺跡……………七

109 丘中学校 (発掘調査・二つの田石器文化・方形周溝墓

の発見・平安時代の集落) 110 高田 111 大ノ田

112 黒崖 113 一夜窪 (押型文期の炉と土器) 114 北ノ

原 115 北海渡 116 五郎次郎 117 古屋敷 118 分教

場西 119 上村 120 裏ノ原 121 出口 122 杜宮寺

123 和手 (弥生住居址と墓・古代の大集落跡) 124 新田

125 中挟 (弥生時代の玉類一六六・調査のあゆみ・田川右

岸の大集落) 126 五日市場 (81) 127 中島 (田川右

岸微高地の集落跡) 128 砂田 129 宗張 130 田川端

(縄文時代前期の集落・弥生後期の集落・平安時代の

集落) 131 焼町 (焼町土器の標式遺跡) 132 剣ノ宮

133 青木中 134 峯畑 (市内初の方形柱穴列) 135 峯畑

## 第五節 田川低平地の遺跡……………六

136 花見 137 野村 138 ヒワイケ 139 吉田向井 (低平

地の縄文遺跡・平安時代の大集落) 140 吉田川西 (古

代の大集落) (90) 141 内畑

## 第六節 奈良井川・小曾部川流域の遺跡……………九

142 長者屋敷 143 池ノ坊 (平安時代の代表的な八稜鏡)

144 横沢 (三角埴形土製品) 145 上野 146 平出 (調査

のあゆみ・繁栄の縄文時代・痕跡的な弥生時代・果下最

大規模の古墳時代集落・緑釉水瓶と灰釉陶器・保護と活

用) 147 下村 148 塞の神 149 慈音寺 150 床尾中

央 (顔面付土器・平安時代の鏡) 151 山浦 152 床尾

神社	13 洗馬下町第二	154 洗馬下町第一	156 洗馬
西南部	156 小怒田	157 言成	158 野辺沢 (毛抜聖太刀と瑞花双鷲八稜鏡)
神明	161 大怒田	162 池ノ権現	163 西原
段	165 北原	166 遠原	167 配水池東
169 下木戸	170 古田	171 町裏	172 向山
174 青木	175 長嵐	176 丸山	177 宮下
179 岩垂原	180 堂平	181 上手村	182 山ノ神 (周辺最大級の縄文前期遺跡・獸面把手付土器と装身具)
権現堂	184 八幡前	185 小段 (小曾部川流域最大の縄文中期集落・縄文後期土壙墓と住居)	186 芦ノ田
187 藤塚	188 長崎	189 小曾部保育園	190 中村
入花見	192 大沢一のくぼ	193 深沢	194 奥平
下平	196 梨ノ木	197 上竹	198 云光
200 琵琶橋	201 瀬沢	199 葉師免	195
第七節 小野川流域の遺跡	……………(12)		
202 堂の入	203 上の原	204 小野・矢彦神社境内	205
米山	206 杜宮司	207 川鳥	208 ぞうぞう口
才山沢	210 刈谷沢	211 長洞	212 芦井沢
畑	214 注蓮掛原	215 島中	216 寺屋敷南
水	218 小清水	219 小鍋	220 富士塚東
向	222 チキリヤ	223 上の宮水神	224 諏訪洞
青木平 (110)	226 大畑	227 秋田荘前	228 東山
229 血下げ原	230 古山	231 五月ヶ丘	232 糠塚
十五社平	234 石塚	235 樋沢 (押型文土器編年の基礎)	233

## 第三章 旧石器時代の塩尻

## 第一節 旧石器時代の遺跡と遺物

青木沢	彌ノ神	柿沢	峯畑	五輪堂	池ノ入
向陽台	山ノ神	矢口	和手	北ノ原	
黒崖	丘中学校	上野	岩垂原	吉田向井	

## 第二節 塩尻の旧石器文化

## 第四章 縄文時代の塩尻

## 第一節 遺跡の分布とその変遷

1 草創期	2 早期	3 前期	4 中期	5 後・晩期
-------	------	------	------	--------

## 第二節 縄文時代の社会

## 一 縄文のイエとムラ

1 縄文集落の確立 (128)	2 縄文集落の定着 (129)	3 組原集落と中期集落の復元 (130)	4 中期集落の構成 (132)	5 石敷の住居と集落の衰退 (132)	6 実態不明な晩期集落 (133)
-----------------	-----------------	----------------------	-----------------	---------------------	-------------------

## 二 地域の中の縄文中期集落の実態

1 東山山麓における集落の変遷 (133)	2 東山山麓にみられる集落の移動	3 集団領域からみた東山山麓 (138)
-----------------------	------------------	----------------------

第三節 縄文時代の生活と文化	一五九
一 縄文人の道具箱——生活のあかし	一六〇
1 いろいろな道具 (139)	2 道具の変遷と生活の変化 (140)
3 縄文中期農耕論とアク抜き技術 (143)	
二 縄文人の信仰と生活	一五七
1 まつりと信仰 (15)	2 礫へのこだわり (16)
3 土偶と石棒 (146)	4 墓地 (148)
5 埋葬 (149)	
三 人と物の交流	一五〇
1 土器の交流 (150)	2 石材の交流 (152)
第五章 弥生時代の塩尻	一五五
第一節 遺跡の分布とその変遷	一五五
第二節 縄文文化の終焉と弥生文化の確立	一五八
一 縄文文化の衰微	一五八
二 「亀ヶ岡文化」の繁栄	一五九
三 水稻耕作の伝来	一五九
四 稲作情報の伝達	一六〇
五 弥生文化の確立	一六一
六 生活暦の転換	一六三
第三節 弥生時代の生活と文化	一六三
一 水稻耕作の技術と道具	一六三

## 第二編 古 代

## 第一章 大化以前の塩尻

## 第一節 概 説

大和政権の誕生と発展 国造制と県 農民の生活

## 第二節 集落と古墳

## 一 集 落

1 下西条・久野井 2 下西条・栃久保 3 棧敷・中

扶 4 片丘・竜神平 5 高出・和手 6 宗賀・平

出

## 二 古 墳

1 田川上流域の古墳

1 彌ノ神古墳群 (1・2・3号墳)

2 小丸山古墳

二 弥生人のくらし	一六九
三 弥生人の住居	一六九
四 農耕祭祀の成立	一六九
第四節 弥生人の社会	一六六
一 拠点集落の成立	一六六
二 農耕社会の成熟	一六九
三 戦争のはじまり	一七〇
四 弥生人の墓	一七〇
五 ムラの変質	一七三

3 柿沢古墳	4 鍋中古墳	5 堀ノ内古墳	6 小塚・大塚古墳	7 中挾古墳	8 狐塚古墳	9 塚田の塚古墳	10 記常塚古墳	11 銭宮一・二号古墳	12 宗賀地区の古墳	13 大塚古墳	14 平出遺跡溝状遺構	15 平出古墳群(三号・一号・二号)	16 千人塚古墳	17 小野地区の古墳	18 石塚古墳	19 市域古墳の特色	20 農民の生活	21 一 竪穴住居での生活	22 竪穴住居の概要	23 生活と道具	24 二 ムラの景観	25 平出遺跡調査の経緯	26 古代平出のムラ	27 平出ムラの生活	28 第四節 塩尻の古代氏族	29 弘法山古墳の意義	30 大和政権の東国支配	31 科野の国造	32 「ソガ」の郷の位置	33 平出遺跡の解釈	34 「アガタ」と渡来人	35 第二章 大化の改新と壬申の乱	36 第一節 概説	37 蘇我氏と厩戸皇子	38 屯倉制と東国情勢	39 近江令と造籍事業	40 第二節 七世紀代の科野	41 科野の一〇郡分割	42 多氏と科野	43 壬申の乱と科野	44 第三章 律令時代の塩尻	45 第一節 概説	46 第二節 郷里の編成	47 郷・里の変遷	48 「郷」の実態	49 筑摩郡の六郷(良田郷・崇賀郷)	50 郷の人口と耕地	51 第三節 地域の官衙	52 科野の国郡衙	53 国司の職務	54 諏訪分国と塩尻	55 筑摩郡の郡郷家	56 第四節 東山道と吉蘇路	57 東山道の道筋	58 市域の東山道と覚志駅	59 塩尻市域と吉蘇路	60 伝馬の道	61 第五節 農民の負担	62 田組と負担	63 賦役の実態	64 第六節 奈良時代の遺跡	65 1 吉田川西	66 2 和手	67 3 丘中学校校庭	68 4 丘中学校高出第II地区	69 5 丘中学校高出第III地区	70 6 平出
--------	--------	---------	-----------	--------	--------	----------	----------	-------------	------------	---------	-------------	--------------------	----------	------------	---------	------------	----------	---------------	------------	----------	------------	--------------	------------	------------	----------------	-------------	--------------	----------	--------------	------------	--------------	-------------------	-----------	-------------	-------------	-------------	----------------	-------------	----------	------------	----------------	-----------	--------------	-----------	-----------	--------------------	------------	--------------	-----------	----------	------------	------------	----------------	-----------	---------------	-------------	---------	--------------	----------	----------	----------------	-----------	---------	-------------	------------------	-------------------	---------

第七節 瓦塔の発見と派生する問題……………	三三七	吉田向井遺跡の変遷 動く村落と定着の村落 山棲の村 内田原遺跡の重要性 「信濃布」の実態……………	三六六
第四章 平安時代の塩尻……………	三四〇	第九節 社 と 寺……………	三六六
第一節 概 説……………	三四〇	土器集積遺構の意味 筑摩郡の神々と神社 阿禮神社を考ふる 鉄鐸の意味するもの 小野神社の神代鉢 仏教の滲透 八(鉢) 伏山信仰……………	三六六
第二節 信濃国府の移庁……………	三四三	第三編 中 世……………	
国府移庁の時期 殷富の輩と移庁問題 渡来系氏族の実態……………	三四三	第一章 政 治……………	三七七
第三節 良田郷の実態……………	三四四	第一節 木曾義仲の拳兵と伝説……………	三七七
田川端 中挟 五日市場 丘中学校 君石……………	三四四	一 洗馬と木曾義仲伝説……………	三七七
吉田川西 吉田向井 一郷の大きさ……………	三四五	1 宗賀邂逅と洗馬太田の清水(271)……………	三七七
第四節 殷富の輩の活動……………	三四九	2 塩尻……………	三七七
筑摩の牧 飯馬の党の活躍……………	三四九	二 信濃の木曾義仲……………	三七九
第五節 在庁官人制の成立……………	三五三	1 義仲の拳兵(279)……………	三七九
極楽寺罅口と蝶形磬……………	三五三	2 義仲伝説と義仲……………	三七九
第六節 武士の台頭……………	三五五	(280)……………	
「殊功の輩」の登用 野辺沢出土遺物の意義 住居……………	三五五	三 長瀬判官代義員……………	三八一
址出土の武器……………	三五五	第二節 鎌倉時代の塩尻の武士……………	三八二
第七節 吉田川西遺跡の調査成果……………	三五六	一 捧紀五近水……………	三八二
格式期のムラの変遷 L字溝と緑釉陶器 墨書土器……………	三五六	二 塩尻次郎重光……………	三八二
のあり方 二二八号墓壙の意義 被葬者と「椽原」……………	三五六	三 赤 木 氏……………	三八五
牧 方形区画境と「祝殿」 領主の館と輸入陶磁器……………	三五六	第三節 南北朝期の塩尻……………	三八七
第八節 平地の村と山の村……………	三五六		

第四節 塩尻と小笠原氏

一 小笠原氏

- 1 小笠原氏と信濃 (290)
- 2 小笠原氏支配下の塩尻 (292)
- 3 小笠原氏の分裂 (294) (1)小笠原氏の相続争い (2)三家に分裂 (3)小笠原政貞の府中進攻 (4)鈴岡小笠原氏の滅亡 (5)府中小笠原氏による松尾制圧 (6)諏訪社の分裂 (298) (1)文安六年の上社と下社の争い (2)文明一二年下社の攻勢 (3)文明一五年上社の抗争 (4)西条と小笠原光政 (5)下社金刺氏の滅亡 (6)諏訪頼重の塩尻城の攻略

二 村井氏

三 波多氏

四 三村氏

- 1 鎌倉時代の三村氏 (305)
- 2 南北朝・室町時代の三村氏 (306)
- 3 備中の三村氏 (310)

第五節 塩尻峠の合戦

一 武田晴信の府中侵入

- 1 武田晴信の府中侵入 (311)
- 2 小笠原長時時の反撃 (312)
- 3 塩尻峠の合戦 (312)
- 4 小笠原長時時の敗因 (314)
- 5 合戦の場所 (315)

二 小笠原長時の没落

三 武田氏の宗教政策

- 1 信玄の宗教政策 (316) (1)青松山長興寺 (2)塩尻地域の寺院政策 (3)金

四 武田信玄と塩尻

- 1 武田信玄と塩尻 (317) (1)青松山長興寺 (2)宝松山西福寺 (3)金
- 2 武田信玄と塩尻 (317) (4)小野・矢彦神社 (5)大宮八幡宮

五 城館の修築

- 1 深志城 (321)
- 2 熊野井ノ城 (322)

第六節 小笠原貞慶の旧領復帰

一 織田信長と木曾義昌

二 小笠原貞慶の深志城入城

三 小笠原貞慶の府中平定

四 麻績・青柳の平定

五 小笠原貞慶と塩尻

- 1 麻績の平定 (326)
- 2 青柳氏の滅亡 (328)
- 1 小笠原貞慶と塩尻 (328)
- 2 塩尻衆 (329)

第二章 社会・経済

第一節 荘園と公領

一 洗馬荘

1 成立と崩壊 (332)

2 領域 (333)

3 本所と領家 (334)

4 地頭 (334) (1)長瀬氏 (2)三村氏 (3)洗馬荘の中心 (334) (1)芦田郷 (2)西洗馬 (6)その他の郷 (336) (1)小曾部 (2)岩垂

(3) 今井	三六	内・大小屋館 (359)	4 高山城 (360)	5 高須城 (360)	三六
二 小野牧	三六	二 片丘地区	1 山の神館 (363)	2 北熊井城 (364)	三七
1 成立 (337)	37	1 山町割 (369)	4 本城 (371)	5 南熊井城 (374)	三七
2 範囲 (337)	37	6 権現館 (375)	7 八間城 (376)	8 赤木南城 (380)	三七
3 領主等	38	三 広丘地区	1 長者屋敷館 (382)	2 光明寺館 (383)	三八
4 牧の機能の消滅 (338)	38	野村館 (384)	3 光明寺館 (383)	3	三八
三 南内牧・北内牧	三八	四 洗馬地区	1 妙義山城・釜井館 (385)	2 小曾部館 (391)	三九
1 成立と消滅 (338)	38	1 鳴雷城 (392)	2 本山城 (395)		三九
2 範囲 (339)	39	六 北小野地区	1 川鳥城 (399)	2 上田館・上田城 (400)	四〇
3 領主	39	上田館 (2) 上田城		(1)	四〇
等 (340)	40	第三節 交 通			四〇
四 熊井郷	四〇	一 京都との道			四一
1 成立と範囲 (340)	40	二 鎌倉との道			四二
2 本所と領家 (341)	41	三 諏訪との道			四三
3	41	四 伊那との道			四四
地頭 (341)	41				四四
五 塩尻郷東条・西条	四一				四四
1 成立と領家など (342)	42				四四
2 範囲 (342)	42				四四
3	42				四四
地頭など (343)	43				四四
六 吉田郷	四四				四四
1 地頭など (344)	44				四四
2 発掘された中世の吉田 (344)	44				四四
七 諏訪下社「造宮帳」に載っている郷	四五				四四
1 平井豆平郷 (346)	46				四四
2 床尾郷 (346)	46				四四
3 本山郷 (347)	47				四四
4 野村郷 (347)	47				四四
5 中挟 (347)	47				四四
6 高出 (347)	47				四四
第二節 塩尻市の城館跡	四六				四四
一 塩尻地区	四六				四四
1 西条山城群 (348)	48				四四
(1) 西条城	48				四四
(2) 嵐城	48				四四
(3) 飯	48				四四
2 上野山城 (356)	56				四四
3 堀之	56				四四
4) まとめ	56				四四



五	木曾との道	四六
六	仁科街道	四七
七	奈良井川の渡河点	四七
	1 琵琶橋(前)	四七
	2 その他の渡河点(後)	四七
第四節	市場	四八
	一 定期市の成立・発展	四八
	二 塩尻の市場	四九
	三 貨幣の流通	四二
	四 塩尻の古銭出土地	四三
第三章	集落	四四
第一節	郷村の変遷	四四
第二節	郷村の姿	四六
	一 塩尻地区	四六
	1 東条(418)	(1)集落の分布
	(3)東条の中心	(4)東条の杜寺
	(1)文献上の西条	(2)西条の山城
	西条	(3)上西条
		(4)下
	二 片丘地区	四四
	1 内田(421)	2 熊井(427)
		3 中挟(429)
	三 広丘地区	四〇
	1 吉田(430)	2 野村(433)
	4 堅石(436)	5 郷原(436)
		3 高出(434)
四	洗馬地区	四六
	1 本洗馬(438)	2 小曾部(441)
	(42)	3 岩垂
	五 宗賀地区	四四
	1 平出(444)	2 床尾(445)
	(46)	3 大怒田
	4 牧野(446)	5 本山(447)
	日出塩(448)	6
	六 北小野地区	四八
	1 たのめの里(448)	2 小野の地名と分割(449)
	3 集落の分布(450)	4 北小野の開発(451)
	5 古城跡(452)	
第四章	中世のおもな寺社	四五
第一節	寺院	四五
	1 金峰山牛伏寺(453)	2 青松山長興寺(455)
	3 寶松山西福寺(456)	4 慈眼山水福寺(457)
	5 慈眼山長谷寺(457)	6 雨寶山常光寺(458)
	7 仏法山一乗院東漸寺(458)	8 延命山真正寺(459)
	9 桔梗山郷福寺(459)	10 飯綱山常光寺(459)
第二節	神社	四六
	1 大宮八幡宮(460)	2 小野神社(460)
	阿禮神社(462)	4 槻井泉神社(463)
	社(464)	6 建部社(464)
	8 床尾神社(465)	9 三嶽神社(466)
		7 高日出神社
		5 池ノ

次  
第四編 近世

第一章 幕藩制の成立と展開……………四七三

はじめに……………四七三

第一節 初期の松本領……………四七四

一 石川氏の入封と政治……………四七四

1 小笠原氏の時代(474) (1)戦国大名から近世大名

へ (2)小笠原氏と塩尻 (2)石川氏の入封(476)

(1)農民政権と石川氏 (2)領境紛争と南北小野の分立

(3)松本城築城と城下町 (3) 郷村支配と塩尻(477)

(1)筋藩制の施行 (2)天正の石直しと石高制……………四七九

二 小笠原氏の再入封と政治……………四七九

1 石川氏の改易と小笠原氏の再入封(479) (1)石川

康長の改易 (2)小笠原秀政の再入封 (2) 小笠原氏

の領国経営と塩尻(481) (1)家臣団と地方支配のしく

み (2)諸法度の発令と領内支配の強化 (3)寺社の統

制と保護 (4)宿駅・交通制度の整備……………四八五

三 戸田氏の入封と所領移動……………四八五

1 高島領と高遠領の分立(485) (2) 戸田氏の郷村

支配(486)……………四八七

第二節 諸領の成立と展開……………四八七

一 松本領……………四八七

1 領主の変遷と所領(487) (1)あいつく大名の移動

ア松平直政の治世 イ堀田正盛の治世 (2)水野氏の

入封 ア水野氏の所領と正保の絵図 イ慶安檢地と

家帳の作成 ウ貞享騒動 エ松本大変と水野氏改易

(3)戸田氏の再入封と所領 (2) 藩政と郷村(485)

(1)組村制と塩尻組 ア組村制の成立 イ割元と組手

代 ウ肝煎と庄屋 (2)高出組と郷村支配 ア高出

組の成立 イ享保条目と寛政条目 ウ戸田光慈の領

内巡見 エ大庄屋とその職務 (3)藩の地方行政機構

ア水野氏時代の郡所機構 イ戸田氏時代の郡所機構

ウ表勘定所機構 エ預所機構 (4)口留番所と荷物貫

目改所 ア本山番所と塩尻番所 イ荷物貫目改所

二 高島領東五千石……………四八五

1 諏訪氏と東五千石(506) (1)東五千石の加増

(2)明暦の分知と寛文の分知替え (2) 藩政と郷村

(507) (1)高島藩の地方支配と三千石代官 (2)領主

の領内巡見と三千石領 (3)埴原知行所の展開 (4)百

瀬知行所の展開……………四八五

三 高遠領西五千石……………四八五

1 領主の変遷と西五千石(513) (1)保科氏と西五千

石の加増 (2)鳥居氏とその治世 (3)内藤氏と洗馬郷

の成立 ア内藤氏の入封と西五千石 イ洗馬郷七か

村 (4)岩垂村の分郷 (2) 藩政と洗馬郷(517)

(1)領内七郷制と飛地洗馬郷 (2)洗馬郷大庄屋とその役

四 幕府領……………五三〇

- 1 幕府直轄領の成立と塩尻(520) (1)水野氏改易と幕府領の成立 (2)飯島陣屋支配から塩尻陣屋支配へ
- (3)塩尻陣屋と代官山本平八郎 2 松本藩御預所とその支配(522) (1)御預所の成立と塩尻組 (2)御預所支配と松本藩

第三節 幕藩制の動揺と藩政改革……………五三五

一 松本藩政と諸改革の実施……………五三五

- 1 飢饉・騒動と寛政改革(525) (1)天明の飢饉と上信騒動 (2)寛政改革と文教政策 2 藩財政の窮乏と天保改革(526) (1)治城百年祭と赤賣騒動 (2)天保改革と国産奨励

二 高島藩政の混乱と藩財政……………五三九

- 1 御家騒動と藩政(529) 2 財政窮乏への対応と三千石領(530)

三 高遠藩政と支配の動揺……………五三九

- 1 藩財政の危機と騒動(531) (1)藩財政の窮乏と対応 (2)商品経済の発展と献金政策 (3)洗馬郷騒動と高遠藩 2 藩政改革と農村構造の変化(535) (1)原熊三郎・新倉伴右衛門らの藩政参加 (2)文政の財政改革 (3)天保の財政改革

第二章 検地と土地制度……………五四〇

第一節 初期松本領の検地……………五四〇

一 貫高制から石高制へ……………五四〇

- 二 天正の石直し……………五四一
- 三 慶長検地……………五四二

第二節 諸領の検地と土地制度……………五四五

一 松本領……………五四五

- 1 寛永期の検地と村切り(545) 2 慶安検地の施行過程 (1)検地の施行過程 (2)検地内容とその結果 (3)慶安検地の意義 3 慶安以後の検地(550) (1)田畑入下げの再検地 (2)新切・斗代上り検地

二 高島領……………五五〇

- 1 東五千石の検地(552) (1)初期の検地 (2)正保の惣検地 2 三千石領の検地(554) (1)再検地・高改め検地 (2)新切・切次・田直し検地・百姓改め検地 3 分知旗本領の検地(556) (1)埴原知行所の検地 (2)百瀬知行の検地 4 検地の実際と仕法(557) (1)内田村の延享検地 (2)検地と経費 (3)東五千石における検地仕法

三 高遠領……………五六一

- 1 明暦検地(561) 2 元禄検地(563) (1)検地の施行過程 (2)検地内容とその結果 (3)元禄検地の意義 3 元禄以後の検地(570) (1)斗代下げの再検地 (2)新開田畑改め検地

四 幕府領……………五六一

1 幕府の土地政策と検地(571)	2 安永検地と勝弦新田(573)	(1)安永の新田検地	(2)勝弦新田の開発と検地	3 桔梗ヶ原の開発(577)	(1)桔梗ヶ原と開発計画	(2)宝暦期と天保期の開発	4 幕府領村内新田の成立(580)	五〇
<b>第三章 貢租と課役</b> ……………五〇								
<b>第一節 初期松本領の貢租と課役</b> ……………五〇								
一 石川氏時代の貢租……………五三	1 石直し検地と貢租(582)	(1)石直し検地と村高表	(2)年貢の村請制	(3)年貢の収納	2 過重な労働課役(583)	五三		
二 小笠原氏時代の貢租……………五三	1 領内法度と年貢制度(583)	2 由来書きにみる年貢の定量化(584)	三 前戸田氏時代の貢租……………五六	四 松平・堀田氏時代の貢租……………五六	1 小物成・小役の新税(585)	2 屋敷免と屋丁役	3 堀田氏時代の貢租(586)	
五 水野氏時代の貢租……………五七	1 水野氏の入部と慶安検地(587)	2 入下げ検地と永引高(587)	3 免状高と収納高(587)	(7)高について	(4)免状高について	(7)定納高について	(二)小物成・小役について	
(イ)種借・綿手について	五七							
4 年貢の納入(583)	5 藩財政における年貢米と御用金への依存(583)	諸領の貢租と課役……………五九	幕府領の貢租……………六三	幕府領の年貢割付状(612)	(1)厘取法と割付状の細分化	(2)年貢の割付と農民の訴願	(3)割付状に見る年貢高の比較	
1 水野から戸田への年貢免状の変化(594)	2 定免制(595)	3 検見(596)	4 御年貢上納払通免制(596)	5 藩財政(600)	一 高島領の貢租……………六〇	(1)検地目録	(2)御成簡差出序目録	
(3)検見	(4)年貢の収納と蔵詰	(5)蔵詰米の付け払い	(6)年貢の皆済	二 高遠領の貢租……………六四	1 鳥居氏時代の年貢制度(604)	(1)反取法	(2)割付状に見る本・新田高の違い	
(3)石盛からみた年貢取奪	2 内藤氏時代の貢租(606)	(1)内郷と洗馬郷の違い	(2)年貢割付状と厘取法	(3)年貢高の推移	(4)入作村の年貢諸役	3 藩財政の危機と諸施策	四 幕府領の貢租……………六三	
幕府領の年貢割付状(612)	(1)厘取法と割付状の細分化	(2)年貢の割付と農民の訴願	(3)割付状に見る年貢高の比較	(4)高掛三役	(5)屋敷免・屋丁銀・小物成	2 定免制と破免検見(615)	(1)定免制施行状況	
ア享保一一年・宝暦八年	イ宝暦九年・文							

政元年 ウ文政五年以降 (2) 破免検見 3 石代納 (607) (1) 石代納引き上げ阻止 (2) 松本藩預所と石代相場操作 (3) 明和の廻米令 (4) 石代納引き下げ願い 4 年貢収納の実際 (621)

五 課 役 …… 六三

1 伝馬と助郷 (623) (1) 伝馬役 (2) 助郷役 (3) 助郷の軽減を求める訴願 2 夫役 (625) 3 普請役 (625) (1) 御普請と自普請 (2) 道橋普請 (3) 川除普請 (4) 寄夫普請 4 江戸廻米 (627) 5 中間勤めと軍夫役 (628) 6 猪鹿土手 (629) 7 追鳥狩り (629)

#### 第四章 村と生活 …… 六三

##### 第一節 近世村落の発達 …… 六三

###### 一 郷村の成立 …… 六三

1 地方知行制から蔵入地へ (631) 2 近世の村 (632) (1) 農村 (2) 宿場町

###### 二 村の発達と分布 …… 六三

###### 三 ささまざまな村の姿 …… 六四

1 宿駅に指定されて移村した村 (634) 2 分村してできた村 (635) 3 新田開発の村 (636)

###### 四 領域が入り組んだ村々 …… 六七

##### 第二節 村の生活 …… 六九

###### 一 村のしくみ …… 六九

1 村役人 (650) (1) 肝煎 (2) 庄屋・組頭の成立 (3) 塩尻組の大庄屋 (4) 藩政と村 2 村方三役 (642) (1) 名主 (2) 組頭 (3) 百姓代 (4) その他  
の村役 (5) 村役人の姿 3 五人組制度 (645)  
(1) 五人組 (2) 五人組の法度 4 村の財政 (648)  
(1) 村入用 (2) 村入用帳にみる村の姿 5 村定め (651)

###### 二 村びとの生活 …… 六三

1 諸条目と日常生活 (652) (1) 高札 (2) 回状 (3) 口達 2 衣食住 (655) (1) 衣 (2) 食 (3) 住 3 家を中心とする生活 (660) (1) 孝行奇特者に推された領民 (2) 相続 4 村の階層と小前層の抬頭 (662) (1) 初期検地の村 (2) 家格・家筋 (3) 村役人の選出 (4) 袴袴着用を求める動き

##### 第三節 宗門改と戸口 …… 六五

###### 一 宗門改 …… 六五

1 宗門改と宗門改帳 (665) 2 宗門人別改帳の戸籍簿化 (666)

###### 二 戸口 …… 六七

1 家族構成 (667) 2 村の年齢構成 (669) 3 婚姻圏 (669) 4 村の人口動態 (670)

##### 第五章 農業・林野 …… 七三

###### 第一節 農業 …… 七三

一 近世の村	六三
二 稲作と畑作	六八
1 稲作(68)	(1)稲作りの一年 (2)田打ちと種扱 浸し (3)苗代 (4)田打ち・代かき・蒔敷がり (5) 田植え (6)稲刈り・脱穀・白挽き (7)稲の品種
2 水利(68)	3 畑作(67)
(2)年貢上納にみられる畑作物 (3)村明細帳にみる畑作物 (4)物産書上帳にみる畑作物 (5)畑作物の栽培 (6)輪作 (7)畑作物の収穫 (8)畑の労働力	
三 農業技術	七〇
1 肥料(70)	(1)蒔敷踏み込みの図 (2)蒔敷 (3)厩肥え (4)村明細帳にみる田畑の肥料 (5)石灰と 蓮華草 (6)ある農家の例 2 農具(70)
第二節 林 野	七二
一 林野と入会	七二
(1)塩尻市域の山林原野 (2)入会 (3)野手・山手 (4)入会山の利用 (5)入会の成立 (6)百姓山・百姓林 (7)御林・御竹藪 (8)木材の統制	
二 入会争論	七九
1 東山・四沢山・内田山(72)	(1)寛文五年の裁許 (2)入会地の開発 (3)高出村の新聞願い (4)勝弦新田 の成立 (5)勝弦新田成立後の争論 (6)嘉永期の入会 規定 (7)享保の楡沢山訴訟 (8)元文の争い (9)寛 政の天狗の宮訴訟 (10)文化期の争い (11)桜沢山領界
山論 (12)荻谷沢山の天和と寛政の争い 2 小曾部 山・尾沢山(75) (1)小曾部山 (2)宝永・享保の争 い 3 桔梗ヶ原をめぐる争い(76)	
第六章 産業・経済	七四
第一節 諸産業	七四
一 石 灰	七四
(1)初期の石灰焼き (2)石灰焼きの増加 (3)石灰焼き をめぐる争い (4)新田稼人の対立 (5)石灰焼きによ る火災 (6)田方養いへの利用 (7)石灰利用の禁止 (8)石灰利用の解禁	
二 砥 石	七六
(1)稼きとしての砥石 (2)砥石稼きの広まり (3)砥石 稼きの諸相 (4)採掘場所および販路	
三 酒 造	七五
(1)酒造の統制 (2)酒造株の移動 (3)酒造経営 (4) 酒の消費	
四 その他の産業	七五
1 養蚕(75)	(1)藩の養蚕奨励 (2)蚕種 (3)開 港による発展 2 綿打ち(75) (1)木綿の広まり (2)綿打ち稼き 3 焼物(76) 4 水車(76) (1)水車稼き願い (2)在方の油絞り (3)水車稼きの規 模
第二節 流通と商業	七三

一 中馬と流通……………七三

- 1 中馬(76) (1)中馬の発展と明和の裁許 ア初期の紛争 イ甲州との紛争 ウ明和の裁許 (2)手馬をめぐる争い ア寛政・享和の手馬争論 イ手馬争論の再燃 ウ松本町問屋との紛争 エ手馬荷の増加 (3)五千石街道をめぐる争い ア五千石街道通行制限 イ中馬手馬の五千石通行禁止 ウ五千石村々の再訴 エ手馬通行の自由 2 犀川通船(77) ア通船願いと反対 イ通船の開始 ウ通船の荷品 3 流通した品々(78) (1)諸品の流通 ア貞享・元禄期の様子 イ宝暦一三年中馬荷物書上 ウ所の産物 (2)塩の流通 ア塩の移入経路 イ元禄南塩一件 ウ南塩の解禁

二 商業活動と金融……………七七

- 1 在村の商い(77) (1)商いの規制 (2)店商いの規制 (3)商いの諸相 2 金融(78) (1)借金 (2)質入れ (3)貸金出入 (4)無尽・頼母子講 (5)殿様無尽

第七章 交 通……………七六

第一節 近世の交通制度……………七六

一 中山道の設定……………七六

二 中山道の機能……………七六

- 1 人馬の継ぎ立て(79) (1)問屋場 (2)伝馬 (3)助郷 2 休泊施設(79) (1)本陣 (2)脇本陣

- (3)旅籠屋 飯売女 (4)茶屋 (5)商店 3 沿道の施設(79) (1)道と橋 (2)一里塚 (3)茶屋本陣 (4)立場 (5)道標・常夜灯

三 その他……………七四

- 1 飛脚(79) (1)継飛脚 (2)七里飛脚 (3)大名飛脚 (4)町飛脚 2 近世の旅(79) (1)歩く旅 (2)駕籠 (3)馬 3 宿場文化(79) 4 宿駅制度の廃止(79)

第二節 塩 尻 宿……………七六

一 中山道以前の塩尻宿……………七六

二 中山道の塩尻宿……………七九

- 1 塩尻宿の設定(79) 2 人馬の継ぎ立て(80) (1)問屋場 (2)伝馬 (3)助郷 3 休泊施設(80) (1)本陣 (2)脇本陣 (3)旅籠屋 (4)茶屋 4 沿道および宿内の施設(80) (1)塩尻峠茶屋本陣 (2)立場 (3)一里塚 (4)塩尻峠の松並木 (5)塩尻口留番所 (6)塩尻陣屋 (7)高札場 (8)飛脚問屋 (9)伊那街道・五千石街道分岐点 5 宿場経済(80) (1)問屋場の経済 (2)地子免 (3)御救い米・拝借金 (4)塩尻宿の生業 6 塩尻宿および沿道の旧跡(80)

第三節 洗 馬 宿……………七六

1 宿の設定と構成(80) 2 人馬の継ぎ立て(80)

- (1)問屋場 (2)伝馬 (3)助郷 (4)継ぎ立て賃銭 3 休泊施設(81) (1)本陣 (2)脇本陣

- (3)旅籠屋 (4)茶屋・商屋 洗馬煮 4 宿内の施設 (85) (1)松本藩洗馬茶屋 (2)荷物賣目改所

## 5 洗馬宿の生業 (86)

#### 第四節 本山宿 …………… 八七

- 1 宿の設定と構成 (87) 2 人馬の継ぎ立て

- (89) (1)問屋場 問屋 (2)伝馬 (3)助郷

- 和宮の通行 3 休泊施設 (82) (1)本陣 本山

- のそば切り (2)脇本陣 (3)旅籠屋 (4)茶屋・商屋

- 4 宿場経済 (84) (1)宿入用 (2)幕府や藩の助成

- 地子免 5 宿場の生業 (85) 6 宿内の施設

- (85) 本山口留番所

#### 第五節 脇往還 …………… 八六

- 一 塩尻地域の脇往還 …………… 八六

- 一一 北国脇往還 …………… 八六

- 1 北国脇往還の成立 (87) 2 郷原宿 (88)

- (1)宿の成立 (2)宿の形成 (3)人馬の継ぎ立て (4)

- 休泊施設

- 三 伊那街道 …………… 八三

- 1 近世の伊那街道 (83) 2 北小野宿 (83)

- (1)宿の機能 (2)人馬の継ぎ立て 3 小野宿 (82)

- (1)中山道小野宿 (2)小野宿の機構 (3)中馬で賑った

- 道 四 五千石街道 …………… 八三

- (1)五千石街道の設定 (2)領主の巡見 (3)南塩と中馬

## 事件

- 五 高遠への道 …………… 八四

- (1)西五千石と高遠道 (2)琵琶橋

#### 第八章 災害と騒動 …………… 八六

- 第一節 災 害 …………… 八六

- 一 凶作と飢饉 …………… 八六

- 1 天明の飢饉 (86) (1)飢饉始まる (2)飢饉

- (3)村定め (4)領主の飢饉対策 (5)飢饉体験のなから

- 期という時代 2 文化・文政期の早魃と凶作 (87) (1)化政

- 期という時代 (2)文政四年の早魃 (3)文政八年の凶

- 作 3 天保の飢饉 (85) (1)飢饉の記録 (2)天

- 保四年の凶作 (3)天保七年の凶作

- 二 水 害 …………… 八六

- 三 火 災 …………… 八三

- (1)火事の記録 (2)村々の火事 (3)宿場の火事

- 第二節 騒 動 …………… 八五

- 一 貞享騒動 …………… 八五

- 1 一揆の性格 (85) 2 要因 (86) 3 発端

- (87) 4 出で立ち (88) 5 五か条の要求と

- 一揆結集の論拠 (86) 6 回答書 (89) 7 強

- 訴 (87) 8 逆襲 (82) 9 幕府の承認と指示

- (87) 10 収納の開始 (83) 11 首謀者の御仕

- 置 (87) 12 御褒美 (84) 13 終末 (85)



## 14 騒動の性格と参加者数 (875)

## 二 村方騒動 …………… 八六八

## 1 村方騒動件数 (876) 2 村役人入札をめぐる

## (876) 3 棒出入をめぐる (883)

## 三 洗馬騒動 …………… 八六四

## 1 騒動の原因 (884) (1) 藩財政窮乏とその解決策

## (2) 琵琶橋事件 (3) 献金による役筋取り立て (4) わら

## じ・木綿上納策 2 騒動の展開 (888) (1) 落し文

## (2) 打ちこわしの様相 (3) 諸要求 3 騒動の終末

## (890) (1) 事件処理 (2) 村方の捕方 (3) 処分

## 四 木曾騒動 …………… 八五四

## 1 原因の分析 (895) 2 徒党の企て (896) 3

## 第一波の動き (896) 4 第二波の動き (897) 5

## 第三波の動き (898) 6 結果 (898) 7 世直し

## の行為 (901)

## 第九章 教育・文化・宗教 …………… 六三三

## 第一節 文化のひろがりと庶民教育の普及 …………… 六三三

## 一 私塾と寺子屋 …………… 六三三

## 1 私塾・寺子屋の開業と普及 (902) 2 塩尻の私

## 塾・寺子屋師匠 (909)

## 二 神道学と国学・心学 …………… 六三三

## 1 神道学 (912) 2 国学と心学 (912)

## 三 算学 …………… 六四四

## 1 算学と算額 (914)

## 2 永福寺観音堂の算額

## 四 医学 …………… 九七

## 第二節 近世塩尻の文芸 …………… 九二九

## 一 菅江真澄とその影響 …………… 九二九

## 1 菅江真澄と塩尻 (919) 2 菅江真澄の影響

## (925)

## 二 和歌と狂歌および漢詩漢文 …………… 九六六

## 1 桃沢夢宅門流 (928) 2 桂園派の伝播の状況

## (930) 3 復古国学系統の歌学 (931) 4 狂歌

## および漢詩漢文 (932)

## 三 俳諧と狂句・川柳 …………… 九四四

## 1 美濃派の伝播と蝶夢の交遊 (934) 2 白雄門人

## と青柳露白 (935) 3 新倉百山・兔国と洗馬連

## (937) 4 熊谷乙人と「更科七部集」 (941) 5

## 幕末期の塩尻俳諧 (943) 6 雑俳と川柳塩尻連

## (944)

## 四 近世風景としての塩尻 …………… 九四六

## 1 旅人のみた塩尻 (946) 2 定住者のみた塩尻

## (948)

## 第三節 神社と寺院 …………… 九四九

## 一 神社 …………… 九四九

## 1 領主と神社 (949) (1) 近世の神社 (2) 小野神社

の場合を中心に ア由来 イ御柱祭 ウ庇護と統

制 2 村の神々(952) (1)神社を支えた人びと

ア神社の再建 イ祭神の勧請 ウ苦しさの中で

エ多方面の神を (2)神社の分布 (3)神職 3 村

祭(956) (1)種々の祭礼 (2)阿禮神社の祭礼 ア

由来 イ祭りと舞台

二一 寺院……………九六六

1 幕藩制下の寺院(958) (1)宗教政策 (2)寺領の

保護 ア朱印・黒印 イ除地と禁制 (3)本末制度

2 檀家制度の確立(962) (1)宗門改め (2)寺請制

度 (3)檀家 ア葬式 イ過去帳 ウ檀中 3

寺院の分布(965) (1)寺院と宗派 (2)寺院の変遷

ア伝えられている寺名 イ永福寺の変遷 ウ寺域の

移動 エ廃寺 4 村の堂宇(968)

三 修験……………九六九

1 修験道(969) 2 近世の修験者(970)

第四節 民間信仰……………九七二

一 日常生活と信仰……………九七三

1 庶民の信仰(972) 2 年間行事(972) 3

通過儀礼(973) (1)出生 (2)結婚 (3)死亡 4

豊かな稔りを願って(975)

二 庶民信仰と石造物……………九七六

1 道祖神と三九郎(976) (1)道祖神の分布とその特

徴 ア分布 イ特徴 ウ御縁想 エ造立者

(2)道祖神と三九郎 ア由来 イ三九郎 2 お庚

申さま(978) (1)庚申講 (2)庚申塔 (3)猿田彦と

青面金剛 3 馬頭観音(980) (1)馬を大切にした

地域 ア中馬 イちとりこば (2)馬頭観音像の姿

4 観音講と巡礼(982) (1)観音石碑 (2)厄除

(3)観音巡礼 5 さまざまな講信仰(985) (1)伊勢講

(2)念仏講 ア念仏講 イ徳本上人 (3)地藏菩薩

(4)日待・月待 (5)祝殿・屋敷神 (6)秋葉講 (7)山

の神 (8)多くの講組織 ア金毘羅講 イ三峯講・

豊川講 ウ富士講 エ諸々の講

第五節 民間伝承とことば……………九八〇

一 ことわざ……………九八〇

二 俚 謡……………九八一

ア唱えこと・童言葉 イ童唄 ウ俚謡

三 昔話と伝説……………九八二

四 方 言……………九八四

第十章 幕末情勢と近代の芽生え……………九八六

第一節 幕末情勢と幕藩の衰退……………九八六

一 開国とその影響……………九八六

1 黒船来航と諸藩の動き(988) (1)ペリーの来航と

幕府の対応 (2)諸藩の江戸湾警備 (3)異国船情報と

民衆 2 尊王攘夷運動の展開(1000) (1)平田派国

学と神道 (2)尊王攘夷運動と志士たち ア安政の大

獄と尊王運動 イ攘夷実行と第二次東禅寺事件 ウ  
 事件の波及と松本藩の対応 3 経済への影響と対応  
 (100) (1)貿易の開始とその影響 (2)蚕糸業の発達  
 と藩の統制

一一 幕末の政情と混乱……………100B

1 和宮の下向と助郷(100) (1)和宮の通行 (2)大

助郷とその実態 2 水戸浪士の通行(100) (1)天

狗党と信濃通行 ア水戸天狗党 イ浪士の信濃通行

(2)種橋戦争の展開 ア松本藩の対応 イ合戦と松

本・高島両藩軍の敗走 ウ種橋戦争と塩尻 エ軍夫の

徴発 3 長州征伐と軍夫(101) (1)第二次長州征

伐への出兵 (2)松本藩の軍夫徴発と庶民の負担 4

幕末の献金・御用金(101) (1)松本藩の献金政策

(2)高島藩・高遠藩の献金政策 5 民衆の動き(103)

(1)木曾騒動と塩尻 (2)御札降りと世相の混乱

第二節 幕府の滅亡と藩の解体……………101A

一 戊辰戦争と北越出兵……………101B

1 東山道軍の通行と諸藩(105) (1)東山道連と松本

藩 (2)東山道軍の塩尻通過と諸藩 2 偽官軍事件

(107) 3 北越出兵(109)

二 新政府の諸改革と藩制の廃止……………101C

1 御預所支配から取締所支配へ(102) (1)尾張藩支

配への移行 (2)塩尻取締役所の設置 2 伊那県の

成立(102) (1)伊那県と塩尻局 (2)経済の混乱と通

貨政策 3 諸藩の組織改革と版籍奉還(102) (1)  
 藩制改革の開始 (2)版籍奉還 4 神仏分離と松本  
 藩の廃仏運動(102) 5 廢藩置県と筑摩県の成立  
 (102)

# 写真・図・表 目次

口絵 1	柴宮銅鐸	12	平出遺跡出土の埋裏	三	展開写真	三
2	菖蒲沢瓦塔	13	平出遺跡出土の縄文中期土器	一五	1・15 和手遺跡の全景	九
3	緑釉陶器類	14	田川端遺跡の弥生時代住居址群全景	一六	1・16 中挾遺跡の全景と小沢芳市発見の装身具	六
4	縄文中期土器	15	向陽台遺跡の弥生時代住居址	一七	1・17 五日市場遺跡の平安時代住居址と中世道路址	六
5	緑釉水瓶	16	中挾遺跡出土の玉類	一八	1・18 峯畑遺跡の全景と遺構・遺物	七
6	倭名類聚鈔	17	銭宮・福沢遺跡出土の弥生中期土器	一九	1・19 吉田川西遺跡の景観	七
7	捧紀五近水宛前右大將家政所下文			二〇	1・20 池の坊遺跡出土の八稜鏡	七
8	木曾街道塩尻嶺諏訪湖水眺望			二一	1・21 平出遺跡調査会と発掘参加の小中学生	七
9	木曾海道六拾九次之内 洗馬			二二	1・22 平出遺跡7号住居址と土器出土状態および出土遺物	七
10	木曾海道六拾九次之内 本山			二三	1・23 平出遺跡にみる「炉」から「カマド」への変遷	七
				二四	1・24 平出遺跡出土の緑釉水瓶と灰釉陶器	七
				二五	1・25 下村遺跡出土の岩偶	七
				二六	1・26 床尾中央遺跡出土の縄文中期土器と顔面裝飾付土器片	七
				二七	1・27 縄文時代の呪術具	七
				二八	1・28 縄文時代の墓地	七
				二九	1・29 平出遺跡のロ号住居址と埋裏	七
				三〇	1・30 中島遺跡の黒曜石の貯蔵	七
				三一	1・31 縄文時代の水田址	七
第一編 原 始						
口絵 1	柿沢遺跡出土の旧石器時代の石器	1・3	市内のローム層の露出	二		
2	福沢遺跡出土の縄文早期の尖底土器	1・4	向陽台遺跡の全景	二五		
3	向陽台遺跡の縄文早期の住居址	1・5	組原遺跡出土の縄文中期土器	二七		
4	向陽台遺跡の縄文早期の集石炉	1・6	組原遺跡の全景	二九		
5	組原遺跡の縄文中期の環状集落を上空からみる	1・7	亀ヶ岡式土器	三		
		1・8	矢口遺跡縄文早期末の環状集落	三		
			全景	三六		
		1・9	史跡公園化された小丸山遺跡	三六		
		1・10	上木戸遺跡出土の縄文中期土器とヒスイ製装身具	三六		
		1・11	高山城遺跡の遠景と1号住居址	三六		
		1・12	堂の前遺跡の縄文早期末の住居址群と出土土器	三六		
		1・13	樋口遺跡の遠景と1号住居址	三六		
		1・14	石川遺跡出土の縄文土器と文様	三六		

1・32	五輪堂遺跡の全景	二〇	1・7	縄文・弥生時代の推計人口と塩尻	二〇	1・27	物 女夫山ノ神遺跡出土の土器	二〇
1・33	福沢遺跡出土の土器と石器	二〇		市縄文時代遺跡数の推移	二〇	1・27	物 女夫山ノ神遺跡出土の土器	二〇
1・34	銭宮・ちんじゅ遺跡出土の土器	二〇	1・8	三世紀の東アジア	二〇	1・28	中原遺跡の調査区・住居址と出土土器	二〇
1・35	長野市川田条里遺跡D地区の弥生時代後期の水田址	二〇	1・9	世界の原始・古代年表	二〇	1・29	物 組原遺跡の調査区と縄文時代中期の環状集落	二〇
1・36	市内出土の弥生時代の石器	二〇	1・10	東山山麓・田川河岸段丘上の遺跡分布	二〇	1・30	物 組原遺跡の平安時代の住居分布	二〇
1・37	平出遺跡出土の布圧痕ある弥生土器底部	二〇	1・11	古屋敷遺跡の調査区・遺構全体図	二〇	1・31	物 山ノ神遺跡の全体図	二〇
1・38	向陽台遺跡の6号住居址と埋藏炉	二〇	1・12	・住居址と出土遺物	二〇	1・32	物 山ノ神遺跡の1号住居址と出土遺物	二〇
1・39	弥生時代の拠点集落	二〇	1・13	弁当原遺跡出土の環状石斧	二〇	1・33	物 山ノ神遺跡の1号住居址と出土遺物	二〇
1・40	向陽台遺跡の弥生時代集落	二〇	1・14	鍛冶屋遺跡出土の有頭槌形石製品	二〇	1・34	物 山ノ神遺跡の1号住居址と出土遺物	二〇
1・41	上木戸遺跡の環濠	二〇	1・15	・独鈷石	二〇	1・35	物 上木戸遺跡の19号住居址と溝から出土した各地の土器	二〇
1・42	東筑摩郡明科町ほうろく屋敷遺跡の土壘墓	二〇	1・16	小丸山遺跡出土の土器	二〇	1・36	物 上木戸遺跡の遺構配置と調査区	二〇
1・43	丘中学校遺跡の方形周溝墓と副葬品	二〇	1・17	小丸山遺跡の土壘墓と出土土器	二〇	1・37	物 上木戸遺跡の19号住居址と溝から出土した各地の土器	二〇
		二一	1・18	内田原遺跡の住居分布	二一	1・38	物 上木戸遺跡の19号住居址と溝から出土した各地の土器	二一
		二二	1・19	君石遺跡の調査区と1号住居址	二一	1・39	物 上木戸遺跡の19号住居址と溝から出土した各地の土器	二一
		二三	1・20	境沢遺跡出土の土器	二一	1・40	物 上木戸遺跡の19号住居址と溝から出土した各地の土器	二一
		二四	1・21	狐塚遺跡出土の土器と石器	二一	1・41	物 上木戸遺跡の19号住居址と溝から出土した各地の土器	二一
		二五	1・22	君石遺跡の調査区と1号住居址	二一	1・42	物 上木戸遺跡の19号住居址と溝から出土した各地の土器	二一
		二六	1・23	境沢遺跡出土の土器	二一	1・43	物 上木戸遺跡の19号住居址と溝から出土した各地の土器	二一
		二七	1・24	君石遺跡の調査区と1号住居址	二一			
		二八	1・25	境沢遺跡出土の土器	二一			
		二九	1・26	君石遺跡の調査区と1号住居址	二一			
		三〇		境沢遺跡出土の土器	二一			
		三一		君石遺跡の調査区と1号住居址	二一			
		三二		境沢遺跡出土の土器	二一			
		三三		君石遺跡の調査区と1号住居址	二一			
		三四		境沢遺跡出土の土器	二一			
		三五		君石遺跡の調査区と1号住居址	二一			
		三六		境沢遺跡出土の土器	二一			
		三七		君石遺跡の調査区と1号住居址	二一			
		三八		境沢遺跡出土の土器	二一			
		三九		君石遺跡の調査区と1号住居址	二一			
		四〇		境沢遺跡出土の土器	二一			
		四一		君石遺跡の調査区と1号住居址	二一			
		四二		境沢遺跡出土の土器	二一			
		四三		君石遺跡の調査区と1号住居址	二一			
		四四		境沢遺跡出土の土器	二一			
		四五		君石遺跡の調査区と1号住居址	二一			
		四六		境沢遺跡出土の土器	二一			
		四七		君石遺跡の調査区と1号住居址	二一			
		四八		境沢遺跡出土の土器	二一			
		四九		君石遺跡の調査区と1号住居址	二一			
		五〇		境沢遺跡出土の土器	二一			
		五一		君石遺跡の調査区と1号住居址	二一			
		五二		境沢遺跡出土の土器	二一			
		五三		君石遺跡の調査区と1号住居址	二一			
		五四		境沢遺跡出土の土器	二一			
		五五		君石遺跡の調査区と1号住居址	二一			
		五六		境沢遺跡出土の土器	二一			
		五七		君石遺跡の調査区と1号住居址	二一			
		五八		境沢遺跡出土の土器	二一			
		五九		君石遺跡の調査区と1号住居址	二一			
		六〇		境沢遺跡出土の土器	二一			
		六一		君石遺跡の調査区と1号住居址	二一			
		六二		境沢遺跡出土の土器	二一			
		六三		君石遺跡の調査区と1号住居址	二一			
		六四		境沢遺跡出土の土器	二一			
		六五		君石遺跡の調査区と1号住居址	二一			
		六六		境沢遺跡出土の土器	二一			
		六七		君石遺跡の調査区と1号住居址	二一			
		六八		境沢遺跡出土の土器	二一			
		六九		君石遺跡の調査区と1号住居址	二一			
		七〇		境沢遺跡出土の土器	二一			
		七一		君石遺跡の調査区と1号住居址	二一			
		七二		境沢遺跡出土の土器	二一			
		七三		君石遺跡の調査区と1号住居址	二一			
		七四		境沢遺跡出土の土器	二一			
		七五		君石遺跡の調査区と1号住居址	二一			
		七六		境沢遺跡出土の土器	二一			
		七七		君石遺跡の調査区と1号住居址	二一			
		七八		境沢遺跡出土の土器	二一			
		七九		君石遺跡の調査区と1号住居址	二一			
		八〇		境沢遺跡出土の土器	二一			
		八一		君石遺跡の調査区と1号住居址	二一			
		八二		境沢遺跡出土の土器	二一			
		八三		君石遺跡の調査区と1号住居址	二一			
		八四		境沢遺跡出土の土器	二一			
		八五		君石遺跡の調査区と1号住居址	二一			
		八六		境沢遺跡出土の土器	二一			
		八七		君石遺跡の調査区と1号住居址	二一			
		八八		境沢遺跡出土の土器	二一			
		八九		君石遺跡の調査区と1号住居址	二一			
		九〇		境沢遺跡出土の土器	二一			
		九一		君石遺跡の調査区と1号住居址	二一			
		九二		境沢遺跡出土の土器	二一			
		九三		君石遺跡の調査区と1号住居址	二一			
		九四		境沢遺跡出土の土器	二一			
		九五		君石遺跡の調査区と1号住居址	二一			
		九六		境沢遺跡出土の土器	二一			
		九七		君石遺跡の調査区と1号住居址	二一			
		九八		境沢遺跡出土の土器	二一			
		九九		君石遺跡の調査区と1号住居址	二一			
		一〇〇		境沢遺跡出土の土器	二一			

1・64	砂田遺跡の1号住居址と調査区	壺	1・86	丘中学校遺跡出土の石器(3)	二〇	1・107	中野市栗林遺跡発見の水さらし場	一四
1・63	住居址と出土遺物	壺	1・85	丘中学校遺跡出土の石器(2)	一九	1・106	縄文中期の道具	一四
1・62	上村遺跡の柱穴列	尺	1・84	北ノ原・丘中学校遺跡出土の石器(1)	二六	1・104	縄文時代早期の道具	一四
1・61	北ノ原遺跡の弥生時代住居址	七	1・83	柿沢遺跡出土の石器	二七	1・103	縄文時代のいろいろな石製の道具	一四
1・60	一夜窪遺跡の縄文早期遺構と出土遺物	七	1・82	青木沢遺跡出土の石器(2)	二六	1・102	縄文中期における土器型式別住居址の変遷	一七
1・59	び昭和52年度調査全体図	高	1・81	青木沢遺跡出土の石器(1)	二五	1・101	東山山麓の縄文中期後葉の遺跡分布	一六
1・58	八窪遺跡の全体図と出土遺物	三	1・80	種次遺跡の出土遺物	二三	布	東山山麓の縄文中期中葉の遺跡分布	一五
1・57	五輪堂遺跡の調査区・全体図と出土土器	七	1・79	種次遺跡の全体図と住居址・土壙・集石	二三	布	東山山麓の縄文中期前葉の遺跡分布	一四
1・56	彌ノ神遺跡出土の遺物	七	1・78	勝弦地域の遺跡分布	二〇	布	東山山麓の縄文中期前葉の遺跡分布	一四
1・55	御堂垣外遺跡の全体図と出土土器	七	1・77	小野川流域の遺跡分布	二〇	敷石住居	敷石住居	一三
1・54	柿沢東遺跡出土の遺物	六	1・76	小段遺跡の調査区および4・5号住居址と出土土器	二〇	1・98	敷石住居	一三
1・53	柿沢東遺跡の全景と住居址群	六	1・75	岩垂山ノ神遺跡の全体図と出土土器	二〇	1・97	祖原遺跡の縄文中期曾利III期の集落構成	一三
1・52	田川扇状地の遺跡分布	六	1・74	小曾部川流域の遺跡分布	二〇	1・96	祖原遺跡の縄文中期集落の変遷	一三
1・51	久野井遺跡出土の遺物	六	1・73	野辺沢遺跡出土の太刀と八稜鏡	二〇	1・95	舅屋敷遺跡の縄文前期集落の変遷	一三
1・50	御幕堂遺跡出土の顔面把手と土器	六	1・72	奈良井川流域の遺跡分布	一九	1・94	北原遺跡の縄文前期集落	一三
1・49	錢宮遺跡出土の土器	六	1・71	平出遺跡の全体図	一九	布と住居址・集石炉	布と住居址・集石炉	一三
1・48	ちんじゅ遺跡出土の遺物	六	1・70	横沢遺跡出土の三角埴形土製品	一九	1・93	向陽台遺跡の早期押型文期集落分布	一三
1・47	大野延太郎の報告による館遺跡出土遺物	六	1・69	吉田向井遺跡の調査区と全体図	一九	1・92	縄文時代後・晩期の遺跡分布	一三
1・46	柴宮銅鐸	六	1・68	田川低平地の遺跡分布	一九	1・91	縄文時代中期の遺跡分布	一三
1・45	南部山麓地域の遺跡分布	六	1・67	焼町遺跡の全体図と焼町土器	一九	1・90	縄文時代前期の遺跡分布	一三
1・44	栗木沢遺跡の1号住居址と出土遺物	六	1・66	田川端遺跡の調査区および全体図と出土遺物	一九	1・89	縄文時代早期の遺跡分布	一三
			1・65	宗張遺跡の集石遺構と出土土器	一九	1・88	縄文時代草創期の遺跡分布	一三

杖遺構

1・108 立石をもつ住居

一四〇

1・109 縄文時代中期の土器分布と運ばれ

一四一

た土器

1・110 石器の材質比率

一四二

1・111 弥生時代遺跡の時期別分布

一四三

1・112 長野県における弥生時代後期の文

一四四

化園

1・113 原始・明治時代までの身長比較

一四五

1・114 弥生時代の生活暦

一四六

1・115 竪穴住居の模式図

一四七

1・116 弥生時代の祭器と分布圏

一四八

表1・1 栃原岩陰遺跡出土の動・植物一覧

一四九

1・2 塩尻地域の縄文遺跡出土土器の石

一五〇

材一覧

1・3 地域の地域別縄文・弥生時代の遺

一五一

跡一覧

第二編 古 代

口絵1 復原整備された平出第1号古墳

2 平出第2号古墳の横穴式石室

3 彌ノ神第1号古墳の全景

4 彌ノ神第1号古墳の横穴式石室

5 平出遺跡の復原された住居

6 平出遺跡の復原された高床倉庫

7 吉田川西遺跡の全景

8 鼠屋敷遺跡出土の古代土器

9 丘中学校遺跡の環状土器集積遺構

10 丘中学校遺跡環状土器集積遺構出土土器

11 萬蒲沢窯跡出土の鳥形硯

12 萬蒲沢窯跡出土の罎口

13 小野神社の神代鉦と鉄鐸

写真2・1 竜神平遺跡の遺構および遺物出

土状況

2・2 平出遺跡3号住居の復原外観

2・3 平出遺跡3号住居址と同址かま

ど付近の復原

2・4 平出遺跡の発掘スナップ

2・5 平出遺跡付近の景観

2・6 平出遺跡42号住居址出土の子持

勾玉

2・7 松本市弘法山古墳の遠望

2・8 松本市下神遺跡出土「草茂」銘

のある墨書土器

2・9 長野市大室古墳群と積石塚

2・10 平出遺跡に復原した高倉

2・11 正倉院白布の墨書銘

2・12 萬蒲沢窯址全景と瓦塔の出土状

態

2・13 男屋敷遺跡出土の須恵器・灰釉

陶器

2・14 松本市宮淵出土の蝶形罎・銅製

榎と罎口および塩尻市広吉田

出土の鉄製護摩炉

2・15 野辺沢遺跡出土の大刀・鏡・鐵

2・16 吉田川西遺跡128号墓壙出土の緑

釉陶器類と八稜鏡

2・17 平出遺跡出土の緑釉水瓶

2・18 内田原遺跡1号住居址出土の布

片と席片

2・19 阿禮神社五百渡

2・20 小野神社の神代鉦

図2・1 古墳と古墳時代遺跡の分布

2・2 久野井・栃久保遺跡の遺構と遺物

2・3 竪穴住居・掘立柱建物・かまどの

模式図

2・4 土師器と須恵器の器形と名称

2・5 中挟・五日市場遺跡の古墳時代住

居址の分布

2・6 中挟遺跡の住居址

2・7 中挟遺跡1号住居址出土の土器

2・8 竜神平遺跡の遺構と遺物

2・9 和手遺跡の古墳時代住居址分布

2・10 平出遺跡の古墳時代住居址分布

2・11 平出遺跡の古墳時代住居址

2・12 古墳のかたち・石室などの名称

2・13 古墳の副葬品の名称

2・14 彌ノ神1号古墳の墳丘と石室

2・15	彌ノ神2号古墳の石室と出土遺物	遺物	二三
	および3号古墳の出土遺物		
2・16	彌ノ神1号古墳の出土遺物	遺物	二四
2・17	塚田の塚古墳の石室と出土遺物	遺物	二五
2・18	平出大塚・長田前古墳の出土鉄剣 と平出遺跡溝状遺構	遺物	二五
2・19	平出古墳群の分布		二六
2・20	平出2号古墳の石室と副葬品の配 列状況		二六
2・21	平出2号古墳の出土遺物 (1)		二七
2・22	平出2号古墳の出土遺物 (2)		二七
2・23	家屋文鏡に画かれた四種の住居		二八
2・24	平出遺跡3号住居の上屋復原		二八
2・25	古代平出ムラの想定図		二九
2・26	平出遺跡周辺の地字図		二九
2・27	平出遺跡最大の11号住居址		三〇
2・28	埼玉県稲荷山古墳出土の鉄剣と銘 文		三〇
2・29	天皇と蘇我氏の系図		三一
2・30	東筑摩郡山形村殿村古墳出土「錦 服部」銘ある墨書土器		三一
2・31	金刺氏系図		三二
2・32	推定筑摩郡六郷図		三二
2・33	信濃国分寺の加藍配置		三三
2・34	信濃の古代交通路		三三
2・35	吉蘇路と東山道の推定路線		三四
2・36	吉田川西遺跡の27号住居址と出土 遺物		三四
2・37	和手遺跡奈良時代住居址の分布		三五
2・38	丘中学校遺跡の1号住居址と出土 遺物		三五
2・39	平出遺跡の柱穴址		三六
2・40	萬蒲沢窯跡の全体図		三六
2・41	萬蒲沢窯跡出土の鳥形硯		三七
2・42	萬蒲沢窯跡出土の瓦塔復原実測図		三七
2・43	藤原氏と天皇系図		三八
2・44	松本市中山地区埴原牧関係遺構の 分布		三八
2・45	平安時代遺跡の分布		三九
2・46	田川端遺跡の12号住居址と出土遺 物		三九
2・47	中挟・五日市場遺跡平安時代住居 址の分布		四〇
2・48	丘中学校遺跡5号住居址と君石遺 跡1号住居址および出土土器		四〇
2・49	吉田川西遺跡の時期別遺構の変遷		四一
2・50	吉田向井遺跡の時期別遺構の変遷		四一
2・51	信濃国内の古代の牧		四二
2・52	長野県内出土緑釉陶器と奈良三彩 の分布		四二
2・53	吉田川西・吉田向井遺跡出土の金 属製品		四三
2・54	吉田川西遺跡の遺構分布全体図		四三
2・55	吉田川西遺跡出土の墨書・刻書土 器		四四
2・56	吉田川西遺跡の128号墓塚と遺物出 土状態		四四
2・57	吉田川西遺跡の32号住居址		四五
2・58	山棲みの集落		四五
2・59	男屋敷遺跡出土の古代土器		四六
2・60	内田原遺跡1号住居址出土の土器 と鉄製品		四六
2・61	丘中学校遺跡の土器集積祭祀遺構		四七
2・62	丘中学校遺跡土器集積祭祀遺構の 出土土器		四七
2・63	松本平出土の鉄鐸		四八
2・64	萬蒲沢遺跡の平安時代墓塚出土遺 物		四八
2・65	市内出土の仏教遺物		四九
表2・1	平出遺跡における6世紀代住居址 の床面積一覽		五〇
2・2	筑摩六郷の呼称		五一
2・3	農氏の負担一覽		五一
2・4	和手遺跡住居址一覽		五二
2・5	和手・中挟・五日市場遺跡の掘立 柱建物址一覽		五二

第三編 中 世

口絵1 塩尻次郎重光宛鎌倉幕府下知状(案)

2 春秋之宮造宮之次第





3・60	野村	四〇	3・87	池ノ社	四〇	3・22	本城	三〇
3・61	田川の河岸段丘	四〇	3・88	建部社	四〇	3・23	南熊井城	三〇
3・62	郷原	四〇	3・89	高日出神社	四〇	3・24	権現館	三〇
3・63	住井渡方面	四〇	3・90	床尾大明神	四〇	3・25	八間城	三〇
3・64	芦ノ田の湿地地帯	四〇	3・91	三嶽神社 拝殿内	四〇	3・26	赤木南城	三〇
3・65	心念堂	四〇				3・27	長者屋敷	三〇
3・66	岩垂の本郷塚	四〇	図3・1	大内氏系図	二〇	3・28	光明寺館	三〇
3・67	伊夜彦社	四〇	3・2	赤木氏系図1	二〇	3・29	野村館	三〇
3・68	床尾神社	四〇	3・3	赤木氏系図2	二〇	3・30	妙義山城	三〇
3・69	瀧社	四〇	3・4	小笠原氏系図	二〇	3・31	釜井庵館	三〇
3・70	八幡宮	四〇	3・5	小笠原光政系図	二〇	3・32	小曾部館	三〇
3・71	池の社の社叢	四〇	3・6	三村氏系図	二〇	3・33	鳴神城	三〇
3・72	熊野社	四〇	3・7	塩尻の荘園・牧・郷の分布	三〇	3・34	本山城	三〇
3・73	富士塚から東および北東を望む	四〇	3・8	洗馬荘の範囲	三〇	3・35	かつとり城	三〇
3・74	鞍衣婆坐像・地蔵菩薩半跏像	四〇	3・9	小野牧関係地名	三〇	3・36	上田館・上田城	三〇
3・75	才応総芸禪師坐像	四〇	3・10	塩尻郷の小集落	三〇	3・37	古銭出土地	三〇
3・76	出家略作法巻首と巻尾	四〇	3・11	発掘された館跡	三〇	3・38	高出地区の田畑の分布	三〇
3・77	才応総芸禪師の伝衣	四〇	3・12	西条城	三〇	3・39	明治一四年奈良井川水系用水図	四〇
3・78	永福寺観音堂	四〇	3・13	嵐城	三〇			
3・79	常光寺山門	四〇	3・14	飯繩城	三〇	表3・1	信濃守護一覽	二五
3・80	東漸寺	四〇	3・15	上野山城	三〇	3・2	永徳三年の小笠原氏所領	二五
3・81	真正寺・本堂内陣	四〇	3・16	堀之内・大小屋館	三〇	3・3	小笠原氏と春近領	二五
3・82	大宮八幡宮拜殿	四〇	3・17	高山城跡全体図	三〇	3・4	「諏訪御符礼之古書」にみえる村	
3・83	熊井備中守宛屋代政国書状	四〇	3・18	高須城	三〇		井氏	
3・84	古鏡三面	四〇	3・19	山ノ神館	三〇	3・5	「吾妻鏡」にみえる三村氏	三〇
3・85	阿禮神社奥社	四〇	3・20	北熊井城	三〇	3・6	中世郷村変遷表	三〇
3・86	槻井泉神社	四〇	3・21	町村の町割と遺構	三〇	3・7	北小野の耕地面積	三〇

## 第四編 近 世

口絵1 松本城

- |       |                 |      |                   |    |      |                        |    |
|-------|-----------------|------|-------------------|----|------|------------------------|----|
| 2     | 高島城             | 4・3  | 長興寺               | 四四 | 4・24 | 白川村・百瀬村の検地帳            | 五七 |
| 3     | 高遠城跡            | 4・4  | 高島領になった東五千石地方を望む  | 四四 | 4・25 | 内田村の検地目録               | 五九 |
| 4     | 松平丹波守宛徳川吉宗領知状   | 4・5  | 多田加助のレリーフ 貞享義民塚   | 四六 | 4・26 | 下小曾部村御魂名寄帳             | 五三 |
| 5     | 松平丹波守宛徳川吉宗領知目録  | 4・6  | 水野氏の廟所・玄向寺        | 四六 | 4・27 | 検地のしかた                 | 五三 |
| 6     | 塩尻宿本陣川上家        | 4・7  | 塩尻組 組手代あての請書      | 四六 | 4・28 | 勝弦新田の現景                | 五八 |
| 7     | 小笠原秀政本山宿問屋申付状   | 4・8  | 寛政一四年八月 戸田氏の寛政条目  | 四六 | 4・29 | 小笠原秀政の領内法度             | 五九 |
| 8     | 小笠原秀政郷原宿伝馬定書    | 4・9  | 大庄屋中田家の座敷         | 四九 | 4・30 | 堀之内村の年貢割付状             | 五九 |
| 9     | 小野神社宛小笠原秀政神領寄進状 | 4・10 | 陣屋も助めた北内田村の馬場家    | 五七 | 4・31 | 文政元年の年貢免状              | 五九 |
| 10    | 中山道塩尻宿助郷帳       | 4・11 | 「諏訪藩主手元絵図」南熊井村の一部 | 五〇 | 4・32 | 元禄五年岩垂村年貢割付状           | 六八 |
| 11    | 小松家住宅           | 4・12 | 百瀬陣屋とその付近         | 五三 | 4・33 | 元文元年堀之内村年貢割付状          | 六三 |
| 12    | 島崎家住宅           | 4・13 | 内藤頼卿あての領知目録       | 五四 | 4・34 | 復元された猪土手と猪垣            | 六元 |
| 13    | 堀内家住宅           | 4・14 | 原家に今も残る門長屋        | 五九 | 4・35 | 勝弦新田の中央部現景と開発絵図        | 六元 |
| 14    | 小野家住宅           | 4・15 | 復元された飯島陣屋         | 五三 | 4・36 | 東五千石村役人入札用紙            | 六〇 |
| 15    | 岩垂の高札場          | 4・16 | 阿禮神社に名を残す代官山本平八郎  | 五二 | 4・37 | 北小野村村入用夫銭帳             | 六〇 |
| 16    | 本山宿             | 4・17 | 戸田氏の廟所・祥雲寺        | 五三 | 4・38 | 木製高札「忠孝親子御札」           | 六〇 |
| 17    | 農作業の図           | 4・18 | 袴着用についての詫び証文      | 五七 | 4・39 | 御用書留帳                  | 六〇 |
| 18    | 検地の図            | 4・19 | 天保期の床尾村           | 五六 | 4・40 | 「木曾街道六十九次」に描かれ<br>た仕事着 | 六〇 |
| 19    | 菅江真澄画像          | 4・20 | 高島城               | 五六 | 4・41 | 初期の小松家の内部と間取り          | 六九 |
| 20    | 算額              | 4・21 | 名橋の面影を残す琵琶橋       | 五四 | 4・42 | 塩尻町村宗門人別改帳             | 六九 |
| 21    | 念仏講絵馬           | 4・22 | 原熊三郎から新倉伴右衛門への一札  | 五六 | 4・43 | 江戸時代の稲作絵               | 六九 |
| 写真4・1 | 松本城             | 4・23 | 検地道具一式            | 五六 | 4・44 | 代掻きの図                  | 六〇 |
| 4・2   | 小笠原氏の廟所・広沢寺     |      |                   |    | 4・45 | 田植えの図                  | 六〇 |
|       |                 |      |                   |    | 4・46 | 稲刈りの図                  | 六〇 |
|       |                 |      |                   |    | 4・47 | 蒟敷路み込みの図               | 六〇 |
|       |                 |      |                   |    | 4・48 | 蒟敷がりの図                 | 六〇 |

4・49	肥しがけ	七五			
4・50	農具をかつく農民	七二			
4・51	五千石中役人立会見取絵図	七六			
4・52	東山の沿革史	七三			
4・53	寛文五年東山論裁許状	七三			
4・54	「東山争論一件書留帳」	七五			
4・55	「勝弦山論覚書」	七九			
4・56	入会裁許状	七九			
4・57	「勝弦山論取替証文」	七九			
4・58	石灰山	七三			
4・59	石灰竈	七三			
4・60	砥石山	七九			
4・61	砥石の原石	七五			
4・62	酒造道具	七五			
4・63	養蚕の図	七七			
4・64	蚕種	七五			
4・65	綿実	七五			
4・66	綿打道具	七六			
4・67	水車小屋	七二			
4・68	中馬追いの風俗	七五			
4・69	中馬札	七五			
4・70	塩吹	七五			
4・71	松木河原風景	七六			
4・72	借金証文	七二			
4・73	質入れ証文	七二			
4・74	質流証文	七二			
4・75	塩尻宿駄賃定書	七六			
4・76	人馬の継ぎ立て	七九			
4・77	本陣	七二			
4・78	間札	七二			
4・79	飯売女の墓碑	七五			
4・80	平出の一里塚	七五			
4・81	駕籠	七六			
4・82	武田信玄伝馬定書	七九			
4・83	塩尻宿助郷帳	八三			
4・84	塩尻宿本陣川上家	八四			
4・85	関所の通行手形	八六			
4・86	洗馬宿北端と道標	八二			
4・87	本陣百瀬家林泉の図	八三			
4・88	「木曾海(街)道六十九次」に画 かれた洗馬	八五			
4・89	本山宿全景	八八			
4・90	本山宿間屋申付状	八九			
4・91	和宮休泊の本陣小林家	八三			
4・92	本山宿本陣の大名休泊帳	八三			
4・93	風俗文選	八三			
4・94	本山宿の旅籠屋	八四			
4・95	郷原宿伝馬定書	八九			
4・96	古井戸と下間屋付近	八九			
4・97	小野宿間屋	八三			
4・98	五千石街道御巡見案内記	八三			
4・99	貞享義民刑場の跡	八五			
4・100	加助の子伝八と三蔵の墓	八七			
4・101	貞享義民社	八五			
4・102	大庄屋原家表門	八四			
4・103	薬師堂	八八			
4・104	奥津紋左衛門三役召上げの申渡 書	八八			
4・105	慶応二寅年騷動発見開書留	八四			
4・106	百姓騷動朝暮録	八四			
4・107	騷動頭取左源太辞世の歌	八〇			
4・108	騷動頭取丸山左源太の墓	八〇			
4・109	吉田正眼筆塚	八二			
4・110	寺子屋手本	八二			
4・111	倉沢義随	九三			
4・112	算額	九五			
4・113	熊谷謙斎	九七			
4・114	釜井庵	九二			
4・115	菅江真澄遊覧記	九二			
4・116	菅江真澄画像	九五			
4・117	桃沢夢宅自画像	九六			
4・118	貧福茶談	九三			
4・119	青柳露白建立の芭蕉の句碑	九五			
4・120	琵琶田集	九七			
4・121	藤森素樂の絵および句	九七			
4・122	熊谷乙人が序文を書いた「更科 七部集」	九二			
4・123	古今田舎樽	九四			
4・124	夢の榮	九八			
4・125	大宮八幡宮祠官宛神道裁許状	九八			
4・126	小野神社宛小笠原秀政神領寄進	九八			

4・127	寛文一二年小野神社社殿再建棟	五〇	4・151	ペリーの肖像と旗艦サスケハナ号	九六	4・7	廻状順	五〇
	札	五二	4・152	山本貞一郎の書	一〇〇	4・8	西五千石の成立と遷移	五五
4・128	近世の御柱祭	五二	4・153	養蚕のようす	一〇三	4・9	江戸深川島田町御材木取捌所家作 絵図	五八
4・129	彫刻の多い北熊井の諏訪社本殿	五二	4・154	和宮の通行図	一〇四	4・10	田の形状と畝歩	五三
4・130	明神平の阿禮神社奥社	五二	4・155	武田耕雲斎肖像とその墓地	一〇七	4・11	平出村における新田開発	五九
4・131	阿禮神社の舞台	五二	4・156	浪人塚	一〇六	4・12	松本領財政動定成出グラフ	六〇
4・132	長興寺宛黒印状・朱印状	五九	4・157	丸山左源太の呼びかけで一揆勢 が集合した洗馬宿の神明社境内	一〇三	4・13	北小野村・年貢取米高と納合高・ 石代比較表	六八
4・133	石川康正の長興寺禁制	六〇	4・158	明治新政府の掲げた高札	一〇六	4・14	小曾部村・北熊井村の年齢構成	六九
4・134	宗門御改帳	六二	4・159	相楽総三らの墓標	一〇七	4・15	高島領三か村と筑摩・安曇両郡の 人口推移	六三
4・135	久野井寺跡	六二	4・160	尾張藩取締所支配から伊那県塩 尻局管轄に引渡されたことを伝 える通達	一〇三	4・16	奈良井川水系図	六四
4・136	永福寺観音堂	六二	4・161	一時期、塩尻局が置かれた水福 寺	一〇二	4・17	江戸時代後期の上西条村絵図	六五
4・137	芦ノ田の心念堂	六二				4・18	奈良井川水系用水系図	六七
4・138	松林寺にある修験者の位牌	六三				4・19	岩垂村農具略絵図	六七
4・139	婚礼当日の婿方・嫁方の御祝儀 目録	六三	4・162	麻仏殿釈により、一時期廃寺と なった善立寺	一〇四	4・20	寛文五年東山論裁許模写図	七三
4・140	葬列役配	六四				4・21	北小野村苜敷山	七四
4・141	神道五穀成就祭	六五				4・22	主要街道図	七三
4・142	道祖神	六六				4・23	五千石街道周辺図	七五
4・143	庚申塔	六六				4・24	塩の移入経路	七五
4・144	馬頭観音	六六				4・25	中山道三宿助郷村の分布	七五
4・145	巡拝供養塔	六六				4・26	塩尻宿略図	七九
4・146	徳本の念仏碑と二十三夜供養塔	六六				4・27	本陣川上家間取図	八〇
4・147	祝殿石祠	六六				4・28	脇本陣川上家間取図	八〇
4・148	鉢伏山	六九				4・29	洗馬宿および沿道遺跡図	八九
4・149	近世の七夕夜の盆踊り	六九				4・30	本山宿略図	八八
4・150	伝説 平出の泉	六九						

4・31	北国脇往還概念図	八七					
4・32	松本藩収納概算高	八六					
4・33	松本平における米価変動	八五					
4・34	木曾騒動世直し一揆行動図	八六					
4・35	熊谷家系	九七					
4・36	塩尻地域の廢藩置縣	二〇四					
表4・1	塩尻十七騎	四五					
4・2	石川氏時代の筋節制	四六					
4・3	小笠原氏の領国支配年表	四〇					
4・4	大和小兵衛の代官所	四三					
4・5	塩尻組各村とその村高	四四					
4・6	本山番所通過の出穀駄数	四四					
4・7	歴代の東五千石の代官一覧	五六					
4・8	三千石領の概要	五九					
4・9	埴原知行所の概要	五二					
4・10	百瀬知行所の概要	五三					
4・11	洗馬郷七ヶ村の概要	五五					
4・12	洗馬郷担当の代官一覧	五六					
4・13	塩尻地域の御預所の村々と村高	五三					
4・14	三千石領の貢租収支のようす	五〇					
4・15	針尾村の納合米	五三					
4・16	天保一年の新規取立にあたっての冥加金の基準	五九					
4・17	天正検地における塩尻地域の鄉村の石高	五三					
4・18	慶長検地における塩尻地域の鄉村の石高	五三					
4・19	の石高	五三					
4・20	寛永期の村切り	五五					
4・21	慶安検地の石盛	五八					
4・22	塩尻地域における慶安検地の石高	五九					
4・23	堅石村の新切・斗代上がり検地	五二					
4・24	赤木村の耕地面積の増加	五五					
4・25	南熊井村の検地と耕地面積の増加	五五					
4・26	赤木村の耕地面積の増加	五五					
4・27	郡中と東三千石各村の石盛	五六					
4・28	元禄検地の打ち出し	五七					
4・29	岩垂村の耕地面積の拡大	五七					
4・30	元禄検地の石盛	五八					
4・31	洗馬郷の古高と新高	五八					
4・32	岩垂村の分郷の仕方	五九					
4・33	洗馬郷三方村における新開田畑の面積	六一					
4・34	幕府領各村の安永検地	六一					
4・35	松本領村内で幕府領となった新田の石高	六一					
4・36	宝永六年「塩尻組高辻井諸色差出帳」一覧表	六一					
4・37	宝永六年「塩尻組高辻井諸色差出帳」一覧表	六一					
4・38	諸引分の塩尻組一八か村寄高	五八					
4・39	宝永六年小物成・小役・代納寄出等一覧表	五九					
4・40	水野氏の藩財政	五九					
4・41	高出村の村高・取利率・年貢高推移表	五九					
4・42	高出村元文四年の年貢納高と払い方	五九					
4・43	元禄一〇年・享保三年の南熊井村検地高	六〇					
4・44	寛延元年南熊井村の御成簡差出目録の明細	六〇					
4・45	内田村年貢払い方表	六〇					
4・46	高遠領の取米率・斗代の比較表	六一					
4・47	高遠領元禄検地村々石盛表	六一					
4・48	正徳四年御領分御取箇目録明細	六一					
4・49	岩垂村取米・取米率・納合高一覧	六一					
4・50	高遠領五千石村々年貢の払先	六一					
4・51	堀之内村享保七年一四年の年貢割付状の明細	六二					
4・52	高掛り小物成の動き	六二					
4・53	北小野村の定免の切り替えと増免	六二					
4・54	石代算出表	六二					
4・55	高出組、寛延元年閏一〇月から一年間の課役負担の様子	六三					
4・56	高出組、寛延元年閏一〇月から一年間の課役負担の様子	六三					
4・57	北小野村・堀之内村の松本預役所出張一覧表	六三					
4・58	松本領塩尻組御札一覧	六三					
4・59	堀之内村戸別坪数	六三					
4・60	屋敷免家数一覧	六三					
4・61	宗門改帳による家族構成	六三					
4・62	高島領村々の人口動態	六三					

4・61	金井村の幕末期戸口の推移	六一	4・86	耕地山林分布状況	七一	4・106	弘化三年野村平右衛門店商い願ひ品々	七〇
4・62	地区別各村の家数・人数の推移	六一	4・87	松本領村々から高遠領へ納野手・山手	七二	4・107	質地球証文中の無尽関係証文数	七〇
4・63	筑摩郡・安曇郡村高別村数	六一	4・88	山手榎・松林年貢納村々	七三	4・108	明和三年六〇兩頼母子講金額、受取人一覧	七〇
4・64	塩尻市域村々の村高の変遷	六一	4・89	百姓山・百姓林	七四	4・109	文化一一年高遠領内二千兩無尽金額一覧	七〇
4・65	塩尻組村々田畑書上	六一	4・90	おもな入会争論	七五	4・110	中道信濃二六宿一覽表	七〇
4・66	大町村葉林家稲作の農作業曆	六一	4・91	勝弦平面積の見積表	七六	4・111	塩尻宿の家数および人数	七〇
4・67	高山家で栽培された稲の品種	六一	4・92	天狗之宮一件訴訟日記	七六	4・112	塩尻宿屋敷割間口・軒数一覽	七〇
4・68	下西条村の堰	六一	4・93	田方養い石灰停止に關する年表	七六	4・113	当地方におけるおもな災害年表	七〇
4・69	堰之内村の用水掛	六一	4・94	酒株の移動	七六	4・114	上西条村田方作柄状況	七〇
4・70	奈良井川・小曾部川系統の堰	六一	4・95	元治元年塩尻組生糸産出高	七六	4・115	高遠領西五千石各村飢人	七〇
4・71	北内田村諸品値段	六一	4・96	天保一四年松本領内組別綿作付け面積および收穫量	七六	4・116	塩尻宿の飢人	七〇
4・72	「松本往来」に記されている農作物	六一	4・97	寛保元年甲州筋中馬紛争内済荷品一覽	七六	4・117	幕御値段	七〇
4・73	年貢の畑作物	六一	4・98	明和の裁許の中馬様き村数・馬数	七六	4・118	高出村御引願高の内訳	七〇
4・74	村明細帳にみる畑作物一覽	六一	4・99	明和の裁許塩尻市域村別馬数	七六	4・119	天保飢饉の記録	七〇
4・75	堰之内村の畑作物	六一	4・100	明和の裁許街道別荷品	七六	4・120	天保期初年の穀相場	七〇
4・76	村々畑作物別自家用分と輸出入	六一	4・101	寛政一二年塩尻宿手馬口錢賦課金額	七六	4・121	天保四年 金井村田方作状況	七〇
4・77	小澤家の畑作物	六一				4・122	天保七年 赤羽家の一月	七〇
4・78	畑作物の播種期	六一				4・123	天保期の穀物相場	七〇
4・79	輪作の様子	六一	4・102	享和三年宿間屋口錢差し戻し荷品金額	七六	4・124	御救叔・御救金	七〇
4・80	北能井村浜家畑作物取り揚げの覽	六一	4・103	眞享三年塩尻の中馬様人の茶屋伊右衛門方入・出荷状況	七六	4・125	金井村の荒地	七〇
4・81	入会山と採取物	六一	4・104	宝曆一三年松本町中馬往来荷物種類数量	七六	4・126	天明二年の川除等被害	七〇
4・82	田畑に使用した肥料	六一				4・127	元禄年間塩尻組内村々の火災	七〇
4・83	種蒔き時の肥料	六一				4・128	天保一三年 長畝村の火事	七〇
4・84	神戸村丸山家こやしけ・こやし作り	六一	4・105	天保一三年塩尻宿前後商い人書上	七六	4・129	眞享騒動主謀者一覽	七〇
4・85	安曇郡南部村々の焼失農具	六一						七〇

4・130	処刑一覽表	六四	
4・131	塩尻市域村方騒動件数	六七	
4・132	塩尻市域の村方騒動年表	六七	
4・133	木曾騒動入年者数	六九	
4・134	塩尻の私塾・寺子屋	七三	
4・135	私塾・寺子屋開業年代と数および師匠数	六六	
4・136	寺子屋開業数	六六	
4・137	私塾・寺子屋師匠の身分職業	六九	
4・138	筆塚一覽	九二	
4・139	種痘の実施	九六	
4・140	天明三・四年における真澄の動向	六三	
4・141	明治初期の各村の氏神	七五	
4・142	正徳三年塩尻組の氏神と祠	九四	
4・143	塩尻組の神人・巫子	九五	
4・144	天正検地による塩尻市域と周辺の寺領一覽	六〇	
4・145	本洗馬村・北内田村の寺堂・社祠の除地	六二	
4・146	塩尻町村の旦那寺院と戸数・人数	六三	
4・147	西福寺過去帳による位号	六四	
4・148	永福寺寄附区分取り決め	六四	
4・149	内田を含む塩尻市域の近世寺院・堂宇	六六	
4・150	塩尻市域の山伏寺院	六七	
4・151	塩尻市の道祖神	六八	
4・152	塩尻市の馬頭観音	六八	
			4・153 塩尻市の念仏供養塔
			4・154 塩尻市の二十三夜塔
			4・155 方言区分
			4・156 和宮通行における松本藩の警備配置
			4・157 塩尻三宿の定助郷村と助郷村高
			4・158 高島藩東三千石における祓金褒賞規定
			4・159 信州諸藩の北越出兵
		二〇九	
		一〇三	
		二〇六	
		二〇五	
		九六	
		九七	
		九八	